

3年 図画工作科学習指導案

授業者 渡邊 翔太

1. 題材名 かわる かわる (A表現(1)ア造形遊び)

2. 題材の目標

○水にインクを落とした際にできる形や、色と色が混ざりながらできていく色などの多様な表現が生まれていくことを理解し、表したいことに合わせた表し方を工夫して、即興的・創発的に主題を表現する。

〔知識及び技能〕

○水にインクを落とした際にできる形や、色と色が混ざりながらできていく色などの表現のよさや表したいことに合わせた表し方などについて考え、主題を即興的・創発的に発想したり構想したりしながら、自分の見方や感じ方を広げたり、深めたりする。

〔思考力、判断力、表現力等〕

○水にインクを落とした際にできる形や、色と色が混ざりながら生まれていく表現の魅力にふれながら、偶発的な表現を楽しんだり、試行錯誤しながら主題を表現したりする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

3. 子どもと題材

「好きな教科は図工です」「図工でものをつくるのが好き」4月、新しく学級の仲間となった多くの子が話してくれた。3年生初めての題材「わたしの色相環」では、三色の水彩絵の具（赤・青・黄）を混ぜながら色をつくる表現活動を行った。混ぜる色の種類や量を考えながら、少しずつ異なる色ができていく現象から「こんなにいっぱい色が作れるのは、初めてでした」「もっといろいろな色を作りたいです」などと、新たな色に出会えた感動を覚えたり、さらに追究していきたいという探究心を高めたりしていた。また、色づくりを実験的に考える子もあり、「赤からスタートしたけど赤にゴールした。たぶんこの理由は赤を後に使いすぎたと思います」と考えたり、組み合わせる色の量を調整しながら、おもった色をつくろうと何度も試したりしていた。

ストローを使用した造形遊び「つなげて つなげて」では、ストローと出会うと、ストローのみで何をしようかと子どものおもいは動き出した。ストローは切ることができないことを条件としていたため、長くつなげようと考えた子はストローの先を少し曲げてストロー同士を差し込むようにして長くつなげた。また、つなげる道具のモールと出会うと、モールをストロー同士の間に刺しこみ、折り曲げて、思いついた形をつくることを楽しんだ。直線的なストローとモールが組み合わせることで生まれた、自由な形をつくることのできる特性から、棒人間をおもいつき嬉しそうに「先生！できた！」と見せにきた子どももいた。また、2つを組み合わせる特性を生かすことで三角錐のような立体をつくれることを知った子は、三角錐を1個つくりあげると、それを重ねるようにもう1つできないかと何度もストローを組み替えながら試行錯誤する姿があった。このように図画工作科の授業において、子どもが表現活動を楽しんだり、主題表現に向けて試行錯誤したりしていく中で、即興的な表現をしたり、それらをつなげて、創発的な表現をしていく過程は魅力的である。本学級の子どももそのような魅力的な姿を見せており、子どもの造形的視点を磨き合うことができる集団となっているのではないかと考えた。

本題材で扱う材は、水と水性インクである。水彩絵の具を水に溶かした液体とは異なり、インクを水に入れるとクラゲのように膜を広げながら水に溶けていく。溶けていく中で、膜の形や様子が水の動きによって徐々に“変化”していく。“変化”していく形は、その都度「〇〇のようだ」と表現への意味づけに結びつくものになる。テーマに沿って主題を描いたり、製作したりするのではなく、おもったことを表現しながら主題をつくっていく造形遊びは、やり直すことができ何度も試しながら、材の特徴や材の扱いを身に付けることができる表現活動である。その点においても、水とインクの造形遊びは、水を

入れ替えることで場を一新することができ、何度でも表現活動に取り組むことができる。また、不思議な液体（洗濯のり）と水を合わせて使用する機会も設定する。そうすることで、水だけでは生まれなかった、新たなインクの落ち方や広がり方と出合って感動を覚えたり、不思議な液体の混ぜる量で生まれる表現の違いを確かめ、実験的にくり返し行ったりすることができる。その中で、その子には自然と主題が生まれてくることもある。ゆっくりと線が伸びるようにできる形から「モンスターの足のようだ」と発想した子は自分のイメージにあるモンスターを液体の中に表現しようとするだろう。しかし、液体とインクという組み合わせの特性から、直接筆などを操作して描いたようなものをつくるのが難しいため、インクの落とし方や不思議な液体と水の割合の調整などをくり返し、より近い表現にしようと挑戦していくだろう。そのように、その子が主題に向かって試行錯誤していく過程には、その子らしさが表出されていくだろう。さらに、容器も箱型から筒形、共通で使用する大きめの箱型容器など、様々なものに出合う。容器の高さや体積、側面の形の違いから生まれる表現は様々で、よりその子にとっての価値ある表現の追究に向かっていけるものになるだろう。子どもの表現は様々になるため、その子が目にしたあらゆる表現への価値づけや意味づけはその子ならではのものになる。各々がその子なりの表現への価値づけや意味づけを行うからこそ、仲間の表現を通して、自分にはなかった新たな価値や意味にふれることが自然と行われる。その中で、その子の表現への価値や意味が広がり、自分の表現につなげていくだろう。また、仲間の表現の綺麗さを感じ、それよりも綺麗なものをつくろうと自分の表現を見つめ直し、深めていくこともあるかもしれない。本題材を通して、水とインクが生み出す表現の綺麗さを味わうだけでなく、より楽しい、美しい表現になるための容器を探したり、水と透明な液体の組み合わせからどのような表現になるのか考えたりしながら、改めて身の回りのものやことを見つめ直していくのではないだろうか。すると、その子の中で「これでやったらどうなるのかな」「これとこれを組み合わせたら…」と視野を広げて考えるようになり、これまで意識して見ていなかったものやことですら、魅力的に見えてくるのではないだろうか。

4. 本題材における『その子らしく学ぶ』

本学級の子どもは、図画工作科が好きであり、授業の中でも、主題表現に向けて試行錯誤しながら表現を楽しむ子が多い。本題材では、水にインクを落とす表現を味わう造形遊びを扱う。また、水だけでなく不思議な液体（洗濯のり）を組み合わせることで表現の幅が広がる材である。

第①時には、水にグレイのインクを落とす現象に出合う。直方体の透明容器に入った水の中に、インクを落とすことで、インクが水に溶けていく様子が見える。膜を張るように広がりながらグレイのインクがゆっくりと落ちていく。その様子を見て、「クラゲみたい」や「魚のひれみたい」などと形から様々なものをイメージし、自分でもやってみたいとおもうだろう。一人一つの直方体の透明容器とインクを受け取り、おもいおもいに水にインクを落としていく。「クラゲがたくさん浮いているところ!」と何滴もインクを落としたり、「黒い雲がすこしずつ広がっていき、世界が暗くなっていきます」とできていく表現から自分で物語をつくったりする子もいる。水にインクが落ちていく様子から形を見出し、意味づけをしたり、形が少しずつ変化していく様子を純粋に綺麗と感じ味わったりするだろう。実験的に考える子は、インク落とす高さに注目して、高さの違いによる表現を比べたり、インクボトルの押し加減によってインクが広がりながら落ちていたり、煙のように一気に広がったりするなど、生まれる表現の違いを比べたりするかもしれない。それぞれの子がおもいおもいに表現活動を楽しむ時間を過ごす中で、「もっと色がほしい」と願う子も出てくるかもしれない。第②時では、色を求めている子どものことを受け止めつつ、あえて色ではなく、透明な不思議な液体（洗濯糊）との出会いを設定する。水に粘度が加わることで、インクの落ち方に違いが表れる。その結果、インクによって表現される「形」にも違いが生じる。そこで、粘度の違いから生まれる表現の違いを十分に感じ、「形」の要素を味わうことで、「色」と出合った際に「色」と「形」を組み合わせることで生まれる表現のよさをより一層感じることにつな



図1 「不思議な液体と水」と「水のみ」の表現の違い

がるだろう。(図1)子どもは、不思議な液体の入ったボトルと追加でもう一つの直方体の透明容器を受け取り、洗濯のりは自分の好きな量を入れていいことを知ると、「先生が入れたくらい入れてみよう」や「全部入れちゃおう」などとそれぞれがおもったように不思議な液体を水と混ぜるだろう。そして、「透明だから、入れても何も変わらないんじゃないかな」や「黒の色が変わるんじゃない」などと現象を予想しながら、インクを落とすと、インクの落ち方がゆっくりになること(動き)や、水に落とした時のインクの様子とは違いインクが線のような表現(形)が生まれることに気づく。さらに、不思議な液体を入れた量によっても表現に違いがあることに気づいた子は、「もっと多く入れたらどうなるかな」「半分半分にしたらどんなインクの落ち方になるかな」などと未知の表現にわくわく感を抱きながら、水、不思議な液体、インクの組み合わせから生まれる表現を楽しむだろう。もっといろいろ試したいというおもしろい気持ちが高まっている中で、その時間を終える。

もっと試したいというおもしろい気持ちを抱きながら迎える第③時には、第①②時で手にしたグレイのインクに加えて、ピンク・ブルー・イエロー・白(白墨汁と洗濯糊の混合)の4色を手にする。第①時、第②時と「色を使いたい」おもしろさを募らせた中、色と出合い、色が使える嬉しさを出しながら、第①時、第②時の中で試していたことに色を加えて表現を楽しむ。グレイのみのときには、形に視点が向いていたが、色が加わることによって、色の変化や色同士が混ざっていく過程の綺麗さを感じるだろう。使える色が増えたことで、より主題が明確になり、「海の中を泳ぐ魚の群れをつくった」や「空に浮かぶ雲と太陽の光が広がっていくところ」などと、タイトルや物語を話しながら表現活動を楽しんだり、「見て見て!色が混ざっていく、ここが綺麗なんだよね」と自分の“綺麗”について話しながら表現を味わったりするだろう。その中で「見て!綺麗じゃない?」「〇〇さんのやつ、ここ綺麗!」「花畑みたいに見えていいよね」と価値づけ合ったり、「〇〇さんのこれ、花畑に見える!」「色々な花が咲いているみたいでいいね」と仲間の作品に対して意味づけをしたりすることもある。意味づけや価値づけをし合ったりくり返したりする中で、「もっとこうしてみよう」とおもしろさを膨らめていくだろう。また、「これさ、もっと不思議な液体の量を増やしたらおもしろいとおもうんだよね」と発想したことを周囲に広げ、仲間を巻き込みながら表現を楽しむこともあるかもしれない。さらに、同じ形の直方体の透明容器が2つあることで、別々の表現を楽しんだり、2つを並べたり、積んだりして、透かした表現を楽しむこともある。様々な表現を楽しみながら、仲間の表現にも自然とふれていき、自分の主題を明確にしながら楽しむだろう。時折、自分の“綺麗”を再度つくりたいとおもって、試行錯誤することもある。再現することは難しいものの、仲間や授業者がそこにかかわることで、その都度できあがる表現にも価値や意味を見出していくのではないだろうか。

水、インク、洗濯のりの組み合わせで生まれる色や形の表現を十分に味わった中で、第④時には、高さが異なる容器に出合う。高さがあることで、インクを入れた際に生まれる表現に変化が生まれたり、側面の曲面が生み出す見え方の違いに気づいたりすると「筒をつかうとぐるぐる巻いたように動くよ」「すこし曲がって見えるのが綺麗」などと言いながら、表現活動場の幅を広げる楽しさを味わう。容器の形も増えたことで、現象や見え方が変化し、表現もより様々になることを感じると「ペットボトルならどうなるかな」「今度、水を入れる透明な水筒もってきてもいいですか」などと、試してみたい容器のアイデアが生まれてくるだろう。容器のアイデアが膨らむだけでなく、直方体の透明容器の中に、筒形の容器を入れると、どのようになるのか試してみたり、仲間と机の上に容器を並べて空間をつくったりしながら、表現を楽しむだろう。自然と仲間を巻き込みながら空間をつくらうとする子は、テーマを話し合い、それに合った表現をしようとする。表現が様々であるからこそ、テーマやそこに合った表現という点において、おもしろさも様々になるだろう。互いの主題をもちより、テーマにどのようにするかせめぎ合いもあるかもしれない。その際には、授業者がかかわり、仲間とおもしろさを語り合い共有することを大切にしながら、表現活動を楽しめるようにしていく。それぞれの容器の違いから生まれる表現の特徴や綺麗さ、そして色の多様さから生まれる表現の綺麗さや楽しさを味わいながら第④時を終える。

第⑤時には、二人に1つの大きな透明容器とも出合う。二人で1つであるからこそ、それをどのように使おうか悩むこともあるかもしれない。交互に表現を楽しむこともできるが、水の入れ替えがこれま

でと異なり容易ではないことを確認すると、互いの表現を大きな容器に表す方法を考えるだろう。これまでの経験から大きな容器の中に、別の容器を入れたらどうなるのかを試したり、前時に考えた自分でもってきた容器（ペットボトル）に蓋をして、表現が混ざらないようにしたりすることもあるだろう。時には、自分の主題より仲間の主題を優先することもあるかもしれない。その際、授業者は二人のこれまでの表現活動を価値づけながらふり返り、それらを合わせたらどのようなになるのかを想像し、やってみたいと思えるように問いかける。二人の表現を生かし合う方法を見つめ直し、“共同的につくり上げる”よさを見出してほしい。また、仲間の表現に対して、「それもいいよね！ならもっとこんなのもよくない？」と肯定的にとらえて、表現をさらに磨こうとすることもあるだろう。その際に、その子が仲間を認め、発想を広げていく姿勢を授業者から認められることで、その子は自分の行動にさらに自信をもっていくのではないだろうか。二人で活動している中で、「他のペアは何をしているのかな」などと興味をもって見たり、互いの表現を見合ったりしながら価値づけや意味づけを自然としていくだろう。その過程で、その子の造形的な視点は磨かれていく。造形的な視点を磨いていく過程を価値づけられることは、その子の学び方が価値づくことにつながり、その子の学び方の変容に関わるだろう。第⑤時の二人組で同じ容器を使う表現を様々な方法で楽しんだ最後には、次回はグループで空間をつくることを知る。

第⑥時では、グループで「かわる かわる」の空間をつくる。子どもは、人間関係からグループをつくらうとする傾向にあるが、これまでの表現をもとに編成された意図的なグループで活動する中で、異なる表現との出会いをしたり、表現の高まりを目指したりするだろう。そこで、第⑥時は意図的なグループ編成をする。最初に、これまで行ってきた様々な表現をふり返ったり、仲間の表現を互いに生かしながらよりよくなった表現をふり返ったりする。その中で、自分たちの「かわる かわる」での歩みを見つめ、グループでのよりよい表現を目指す方法を見出していく。実際にあれこれ試しながら自分たちの納得する表現をつくり出すだろう。グループでの表現を模索する中で、おもしろい共有やぶつかり合いを経験し、それが共同的に活動する際に大切なものであると感じるだろう。

第⑦時には、グループでの表現を見合う。「海の世界」や「虹のかかる空」などとそれぞれのテーマを話したり、「ここも綺麗！」「ここ〇〇にも見える」などと自分なりの価値づけや意味づけをしたりするだろう。それぞれの空間を見た後に、自分のこれまでの歩みをふり返り本題材を終える。

本題材を通して、表現に対して様々な価値づけや意味づけをし合いながら、造形的視点を磨くだろう。そして、その磨かれた造形的視点をもとに身近なものを見つめると、新たな“綺麗”を見出したり、ものやことの可能性を再発見したりする中で、人生が彩り豊かになっていくだろう。また、仲間の価値づけや意味づけにたくさんふれることで、学校という場で共に様々な活動を行うことのよさを感じ、仲間と生きる人生に価値を見出していくことを願っている。

5. 題材構想（全⑦時間扱い／本時は第④時）

＜教師の投げかけ＞ 子どもの表れ 最終時における子どもの表れ ○教師の働きかけ

① ＜水にこのインク入れたどうなるかな＞

- ・ 黒い水ができる ・ なんか“もやもや”ってひろがるんじゃない？
- ・ 黒いクラゲみたいになった ・ 魚のひれみたいにも見える

＜自分たちでやってみよう＞

〔形からストーリーをつくる〕

- ・ クラゲがたくさん泳いでいるようになったよ
- ・ 暗黒の雲が広がって世界が暗くなっていく～
- ・ 黒の雨がたくさん降ってきた

〔形の変化を味わう〕

- ・ 形がすこしずつ変わっていくからずっと見てたくなる
- ・ 少し入れ物を動かすとインクの動きが変わって面白
- ・ 指で混ぜるとぐるぐると回転してるみたい

第①時

- インクが水に落ちていく形に目を向けられるように、教卓で試しを行い、どのようなになったのかを問う。
- その子がおもったインクの落とし方、入れ方を試すために一人1つの透明直方体の容器を渡す。

〔インクの入れ方の違いで生まれる表現を味わう〕

- ・高いところから落とすと“バツ”って広がる感じ。ギリギリで入れた時とはちがうな
- ・強く押して入れたら“バツ”ってインクが広がったけど、あんまり綺麗じゃないな

〔やりたいことを広げていく〕

- ・もっと大きい入れ物でやってみたいな
- ・黒じゃなくてもっと色ないの？
- ・赤色ほしいな
- ・なんか、サイレンヘッドのような感じにできないかな

〔表現への価値づけや意味づけ〕

- ・インクがふわっと広がる感じがいいなと思う。
- ・〇〇のなんか黒い生物が生きているみたいで面白いね。僕もやってみよ
- ・少しずつ落とした〇〇ちゃんの黒いクラゲがたくさん泳いでいるみたい！私もやるからつなげてみよう。
- ・へへ。サイレンヘッドみたいな感じにはできなかったけど、なんかアメーバみたいな生きものが変わりながら消えていくのができた。

＜②透明な不思議な液体を用意したよ。これを水に入れてインクを落としたらどうなるかな＞

- ・知ってる！黒が紫になるんでしょ
- ・変わらないんじゃない

＜自分でやってみよう＞

〔落ち方の違い〕

- ・さっきよりもゆっくりとインクが落ちるんだ
- ・なんかクラゲの形が水だけの時よりも残っている感じがする
- ・水と並べたら落ちる速さが違うかも

〔洗濯糊の量の調整〕

- ・先生よりたくさん入れたらさっきよりもっとゆっくりになったよ
- ・少なめにしたら、水に近くなった
- ・不思議な液体だけでやってもいいかな
- ・水の時とあんまり変わらないよ

〔ストーリーを広げる〕

- ・ゆっくり線のように伸びるからサイレンヘッドができた。もっとたくさんつくろう
- ・形がゆっくりと残るからクラゲがたくさん残せるね。クラゲがたくさん水槽をつくりたい

〔仲間と共に〕

- ・クラゲをたくさん並べたら、クラゲの水族館つくれたよ
- ・みんなでサイレンヘッドつくって、歩いてくるように見えるように並べよう

〔やりたいことを広げていく〕

- ・他の透明な入れ物は使えないかな
- ・黒じゃない色でやりたいな

③ <今日は色も用意したよ！いろいろ試してみよう>

〔色からストーリーを広げる〕

- ・きれいな空に白い雲と虹ができました
- ・海の中をカラフルなクラゲが泳いでいます
- ・スイミーみたいなお話つくろう

〔色と形の組み合わせを味わう〕

- ・色が“もやもや”っとして綺麗
- ・青と黄色が混ざると緑の所もできるけど、全部緑にならないのいいな

〔価値づけ・意味づけ合う〕

- ・見て、見て！これきれいじゃない？
- ・ここなんか雲に光が差したみたいできれいだね
- ・これ、なんか生きものの足が伸びているみたい
- ・動物園みたいになりそうだね

④ (本時) <こんな入れ物も用意したよ。これを使うとどうなるかな>

〔高さの違いから生まれる表現を味わう〕

- ・高さがあるとゆっくりと落ちるし、下までいかないうで止まるんだね。不思議～
- ・渦巻みたいになるからカラフルな渦巻ができる
- ・ゆっくりと渦を巻いて動くからずっと見ていたい

〔容器を組み合わせる〕

- ・四角いやつに入れて斜めにするとう違う感じにインクが落ちるね
- ・水を入れた四角いやつに細長いやつ入れると中で別々のものが見えるよ

〔仲間と空間づくりへ〕

- ・〇〇ちゃんと同じ色みたいな感じで並べたら虹色の部屋がつくれた。もっと囲んだら家みたいになるかも
- ・〇〇くんとカラフルなクラゲを並べたらクラゲの水族館になったよ

○子どもがインクが作る形やインクの動きから生まれる表現を楽しみながら互いに価値づけや意味づけができるように、席は固定せずに動き回ることができるようにする。

○子どもが水の入替えを容易にできるように水を入れる場所(水を入れた大きい容器)を準備し、流しで水を捨て、水入れ場で水を入れるようにする。

第②時

○子どもが前時のことを再度試せるように、授業開始前に水とインクで試せるように場を用意しておく。

○子どもがインクを落とした違いに洗濯糊の影響しているということに目を向けられるように、最初は不思議な液体と紹介するがのちに洗濯糊であることを伝える。

○子どもが水とインク、水とインクと不思議な液体の組み合わせが比較できるように、2つ目の容器を渡す。

○子ども同士の価値づけや意味づけが生まれるように、子どもが授業者に見せようとしてきた際は、他の子も巻き込むようにし

第③時

○子どもの「色が欲しい」という願いを受けて、色を準備したように、色を提示する。

○子どもの様々な表現活動が広がったり、深まったりするように、子どもの表現活動を見取り、子ども同士の関わり合いにつなげるようにかかわる。

第④時

○子どもが表現の幅を広げていけるように、新たな道具(筒形の容器)との出会いを設定する。

- ・家から透明な入れ物持ってきたらもっといろいろできそうかも

⑤ <大きな入れ物を用意したよ。二人でどう使おうか>

〔二人で話し合いながら共同的にやる〕

- ・一緒にさ、空をつくらない？雲と虹とかがつくれたらいいよね
- ・「せーの」でいろんなインク落として、たくさんのクラゲが泳いでいるようにしよう！
- ・持ってきた透明な水筒も中に入れてみない？

〔別々で行う〕

- ・混ざるの嫌だから、別々でやろう
- ・一緒にやっているのは楽しそうだな
- ・〇〇くんと一緒に海とかがつくれそう
- ・□□ちゃんと一緒にわたしもたくさん洗濯糊使っちゃったから、この入れ物でもそうしてみない？

〔仲間と空間づくりを味わう〕

- ・友達とたくさんのクラゲを一緒につくれたから面白くなった。
- ・一気にいろんな色に入れられるからもっと人数増やしてやってみたい！やっていいよね！

⑥⑦ <グループで「かわって かわって」の空間をつくろう>

- ・みんなの並べて水族館をつくろうよ！いろんなクラゲが見られる水族館！
- ・不思議な生き物を育てる研究施設にしてみない？なんか育てているみたいな感じにできそう！
- ・いろんな色がきれいに見えるからそれぞれがきれいなのを並べてもいいかも！

<それぞれの「かわって かわって」の空間を体験してみよう>

- ・このグループの水族館、うちのグループと似ている！いっしょにやったらもっと大きな水族館にできそう
- ・クラゲの形が変わって、模様にも見える。混ざっているのがきれいだね
- ・おうちの人を呼んで見てもらいたい
- ・1組とか2組とかお客さんで来てもらうのはどうかな

<「かわる かわる」の自分をふり返ってみよう>

- ・最初、黒だけだったから明るくなかったけど、色がたくさん増えたら色が混ざったり、違う色になったりするのが綺麗だった。〇〇ちゃんから綺麗だねって言われて嬉しかったし、自分も〇〇ちゃんのやつ綺麗！！って言ったら嬉しそうにしてくれたからよかった。みんなで空間をつくったときは、いっしょに話しながらいい水族館になってよかった。
- ・形がいろいろ変わるのが面白かった。色が増えて、いろんなものをつくることができた。□□君と一緒にやって、大きな怪物みたいなのができたのは嬉しかった。友達と一緒にやって、たのしい空間ができたのが嬉しかった。

○子どもが容器の違いに目を向けられるように、第①時と同じようにどうなると思うのか予想させてから、表現活動に移る。

○その子なりの楽しみ方で表現活動できるように一人1つの円柱の容器を渡す。

○子どもがケガをしないように、円柱はガラス製であることを伝え、持ち方や水の出し入れの注意点を説明をする。

第⑤時

○子どもが共同的に表現活動に向き合うことができるように、大きな透明直方体容器(ガラス製)を二人に1つ渡す。

○子どもが表現活動の幅を広げられるように、大きな容器でできることや安全面(水の入替えは教師に頼む)についての共有を図る。

○共同的に行うことが嫌だと思ふ子も、共同的な活動に向きあえるようにそれぞれの表現活動を一緒にふり返りながら、共通点を見出し、共同製作に向き合えるようにする。

第⑤⑥時

○子ども同士で表現方法を話し合いながら空間をつくっていくように、話し合いの様子を見取りながら、何をつくっていくと考えているのかを明確にしていけるようにかかわる。

○仲間の表現にも十分にふれ、自分のこれまでをしっかりとふり返ることができるように、時間配分に留意しながら全体にかかわる。